

円山動物園の オオジシギ



さっぽろ
円山動物園
Sapporo Maruyama Zoo
だより
2023
Vol.181
夏号

2021年7月に北海道釧路市阿寒町で雛の状態で見つけられ、
2021年11月5日に猛禽類医学研究所から円山動物園へ来園

来園したころは人工育雛で育ったこともあり、人懐っこい性格でした。しかし成長に伴い、最近では警戒心が強いです。

円山動物園ではペレット、コオロギをエサとして与えています。たまにミルワームも与えています。過去に趾瘤症という足の病気を患ったことがあり、立ち方に少し違和感がありますが元気です。近くに人がいる時は頭を低くし尾を上げて、隠れているような姿勢をしています。

オオジシギを とりまく環境

オオジシギは数が減ったと言われていますが、詳しくはわかりません。オオジシギを守るためには、オオジシギの「今」を知る必要があります。日本野鳥の会など自然保護団体はオオジシギが必要としている地域や環境を知り保護できるように、オオジシギの生息状況や渡りのルート、中継地や越冬地を調べているところです。



北海道の 動物シリーズ 1 オオジシギ

開園時間
3月1日～10月31日…午前9時30分～午後4時30分
11月1日～2月末日…午前9時30分～午後4時

休園日
毎月…第2、第4水曜日(祝日の場合は翌日)
※8月は3日、24日
4月・11月…第2水曜日を含むその週の月～金曜日
12月…29～31日

料金
大人年間パスポート/2,000円 団体(30名以上)/720円
大人/800円 高校生/400円 小人(中学生以下)/無料
駐車料金 普通車/1回700円

| 飼育動物数 (2023年4月末時点) | | |
|-----------------------|------|------|
| 哺乳類 | 56種 | 278点 |
| 鳥類 | 35種 | 132点 |
| 爬虫類 | 44種 | 273点 |
| 両生類 | 12種 | 92点 |
| 魚類 | 0種 | 0点 |
| 総計 | 147種 | 775点 |

札幌市円山動物園公式HP
<https://www.city.sapporo.jp/zoo/>
札幌市円山動物園 TEL011-621-1426

SAPP_RO

動物取扱業に関する表示
氏名:札幌市円山動物園 園長 柴田 千賀子
事業所の名称:札幌市円山動物園
事業所の所在地:札幌市中央区宮ヶ丘3番地1
動物取扱業の種別(登録番号):展示(札幌動物園登録第437号)、販売(札幌動物園登録第1081号)、保管(札幌動物園登録第1082号)、貸出(札幌動物園登録第1083号)、訓練(札幌動物園登録第1084号)
登録年月日:平成19年5月21日(展示)、平成24年5月21日(販売、保管、貸出、訓練)
有効期限の末日:令和9年5月20日
(展示、販売、保管、貸出、訓練)
動物取扱責任者:柴田 千賀子

Sapporo City Wi-Fi
SAPP_RO

さっぽろ市
02-403-22-1063
R5-2-854



目

地面でエサを探していても上空の天敵に気付けるように、目は顔の側面についています。ほかの鳥と違って少し目が離れているように見えるのはこのためです。



褐色に黒の斑点があり、枯草に似た模様をしています。

地面にいると見つけるのはかなり難しいです。

羽の模様



全長 約30cm
体重 100~200g

尾羽

オスはディスプレイフライトをするため、メスより尾羽が長く、枚数も多いです。急降下するとき、この尾羽で風を切り、音を出しています。



くちばし

くちばしの先っぽは柔らかく先だけ開くことができ、泥にくちばしをさして餌となるミミズや昆虫などを探します。

オオジシギの渡りとは?

オオジシギは北海道で卵を産んで育てます。しかし、1年中北海道でくらしているわけではありません。秋ごろになると、厳しい冬を越えるため長い距離を飛んで移動するのです。このような行動を「渡り」と呼んでいます。オオジシギはどこまで移動するのかというと、なんと「オーストラリア」!日本から約7000kmも離れていますが、なんと海の上を7日間休みなく飛び続けるそうです。



出典:日本野鳥の会

必見!

ディスプレイフライト

ディスプレイフライトの動画はこちら!▼



繁殖期である4月から5月には、ディスプレイフライトと呼ばれる飛び方をします。高いところから急降下をするときに尾羽で風を切って大きな音を立てることで、他の個体へアピールを行います。



ジシギ類とは?

ジシギは全身が茶色く複雑な羽色をしており、それぞれがよく似ています。日本で見られるジシギ類はタシギ、ハリオシギ、チュウジシギ、オオジシギ、アオシギの5種でどの種類か判別するのは非常に難しいです。主に水田や農耕地、湿地で観察される種(アオシギは山地の渓流域や河川で観察されることが多い)でくちばしを地面に突っ込み先端の感覚を使ってミミズや昆虫などの小動物を食べます。地味な姿に見えますが、見事な保護色になっておりなかなか見つけることはできません。